

もりの森林の話

第 32 話
網走南部森林管理署
栗原 詩

若手職員のコーナーです

私はくりちゃん。

こんにちは！栗だいき「くりちゃん」こと栗原です。6月に開催した小清水町植樹祭で、この自己紹介をしてから、地域の方に「くりちゃん」で覚えてもらいました。キャッチーって大切ですね。

未来の森のために今これをやりたい！

今回は、私が昨年度から取り組んでいる「もりのめ」の活動について紹介します。「もりのめ」は、木育を行う網走南部森林管理署内の組織で、令和5年度に同署の竹本とともに立ち上げました。100万年後も豊かな森を維持していくために、教育がとても重要な役割を担っていると考えます。

それではさっそく活動紹介です。まず6月に開催された、植樹祭での森林クイズ。毎年、植樹はするけれど、どうして植樹をするのか、森や木のことを知らずに終わるなんて勿体ない！と思い、子供から大人まで楽しめるようなクイズを行いました。後日、親御さんから、子供が家族に同じクイズを出題していたと聞いて、もりのめ（芽）だな～と嬉しくなりました。



植樹祭でのクイズの様子

続いて8月の活動です。小清水町の小学生が放課後に集まる児童クラブというものがあります。その場をお借りして出張森林教室を行いました。

内容は、森林クイズと、木のコースター作りです。小清水町の森に関する内容やコースターに使う樹種の名前と特徴、年輪を数えることで木が何才か分かることなど、クイズ形式で楽しく学んでもらえました。最後はコースターに各自好きな絵を描き、オリジナルコースターを作ってもらいました。クイズの中で樹皮や種の実物を触ってもらったのですが、想像以上に興味をそそったのか、ぐちゃぐちゃになって返ってきました（笑）。子供たちの好奇心は計り知れないです。このまま森や木に楽しく触れて育ち、それらを大好きになってもらいたいところです。



木のコースターの見本たち

おわりに

私たちの生活は大きく森に支えられており、身近なところでそれを感じることができます。災害に強い土地、きれいな水や生き物のすみか、家の中にも森との繋がりが沢山あります。しかし、木材需要の低迷や林業従事者の減少等により、健全な森づくりを維持していくことが難しくなっているのが現状です。この現状を改善するためには、将来の森を支える多様な人材を育てていく必要があります。「もりのめ」は、森への興味関心を広げることで未来の森を守り、安全で豊かな地域を守ることに繋がります。